



# あかしの社会福祉

No.82 2014. 4.

編集・発行  
社会福祉法人  
**明石市社会福祉協議会**  
〒673-0037 明石市貴崎1丁目5番13号  
市立総合福祉センター内  
☎(078)924-9105  
http://www.akashi-shakyo.jp

明石市社会福祉協議会

検索



ミニケアサロン活動や友愛訪問活動などを行っているボランティアグループ「二見みのりの会」のお花見会の様子。

肌寒い一日でしたが、踊ったり会話をしたりと心温まる交流の場となりました。

<b>目次</b>	平成26年度事業計画、予算・・・P2～P3	社協プランの進行管理の進捗状況・・・P4～P5
	地区社協フォーラムの開催 ほか・・・P6	ボランティア養成講座のご案内・・・P7
	インフォメーション・・・P8	

回 覧																				

## 社協プランに基づく事業方針

市社会福祉協議会（以下「市社協」という。）では、平成23年3月に、今後5年間の事業活動の指針となる「地域福祉活動計画～地域の福祉力を高める社協プラン～」(以下「社協プラン」という。)を策定し、地区社会福祉協議会やボランティア団体に対する活動支援をはじめ、高齢者や障がい者への生活支援など、様々な事業に取り組んでまいりました。

本年度はこの3年間の成果を検証しながら、市民の皆さまの参画と協働のもと、より一層の地域福祉の推進に取り組んでまいります。

社協プランでは、次のとおり「基本理念」と「基本方針」並びに「5つの施策」を定めているとともに、総合的、計画的に事業を推進するため、「事業実施計画」を定めています。

### 基本理念

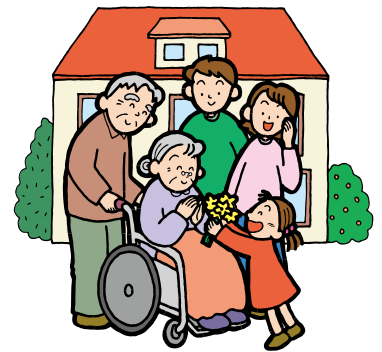
それぞれの地域が、それぞれの特色を活かした方法で、「誰もが安心して住み続けることができる地域づくり」に取り組もう

### 基本方針

- (1) 住民主体で地域の福祉力・地域力を高める
- (2) 人のつながりに支えられた地域の安全・安心を高めていく

### 施策

- (1) 地区社会福祉協議会の活動支援を強化する
- (2) 担い手養成とネットワーク化支援を推進する
- (3) 住民と力を合わせて人のつながりを拓けていく
- (4) フォーマルからインフォーマルまで一貫した視点で地域生活を支える
- (5) 市社協の体制を強化・充実する



## 平成26年度明石市社会福祉協議会事業計画及び予算

### 1. 本年度の重点的な取り組み

本年度は、地域ごとの特色をまとめた「地域つながるカード」の作成や地区社協ニュースによるPRなどを通じて地区社会福祉協議会の見える化を推進するとともに、会長連絡協議会を設立して地区社協どうしの連携を強化していきます。

また、学生ボランティアの養成や学生の実習受け入れなどを通じて次世代の育成支援に取り組んでいくとともに、いざという時に備えて災害ボランティアの登録と活動支援、災害ボランティアセンターシミュレーション訓練等を実施し災害時に迅速に対応できるよう取り組みを強化していきます。

更に、障がい者相談における地区担当制の導入や、計画相談事業所への支援など基幹相談支援センター兼障害者虐待防止センターの運営の充実を図ってまいります。

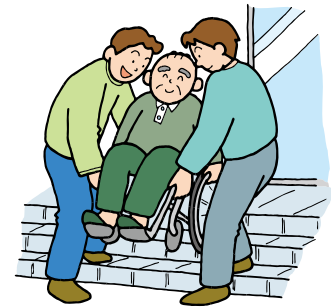
### 2. 主要事業

#### 1 地区社会福祉協議会（以下「地区社協」という。）の活動支援を強化する

- ①地区社協の特性を活かした地区社協の在り方の再検討
- ②市社協における地区担当制の充実
- ③まちづくり組織等の活動と地区社協活動の連携

**2 担い手養成とネットワーク化支援を推進する**

- ①ネットワーク化の推進
- ②担い手を増やす
- ③福祉人材の育成支援



**3 住民と力をあわせて人のつながりを広げていく**

- ①地域や団体が実施する福祉活動支援の拡充
- ②きめ細やかな福祉ニーズが把握できる体制づくりや相談窓口の設置

**4 フォーマルからインフォーマルまで一貫した視点で地域生活を支える**

- ①福祉サービス提供の体系づくり
- ②災害時での要援護者支援につながる視点での取り組み
- ③地域包括支援センターの充実
- ④介護保険等事業の実施
- ⑤障がい者・高齢者等の生活支援
- ⑥地域における新たな取り組みの推進
- ⑦市立総合福祉センターの管理運営



**5 市社協の体制を強化・充実する**

- ①多様な情報発信手段の拡充
- ②ノウハウの継続的蓄積に向けたプロパー（専従）職員を中心とした体制づくり
- ③職員研修の充実
- ④自主財源の確保

◆平成26年度 経常活動資金収支予算 (単位：千円)

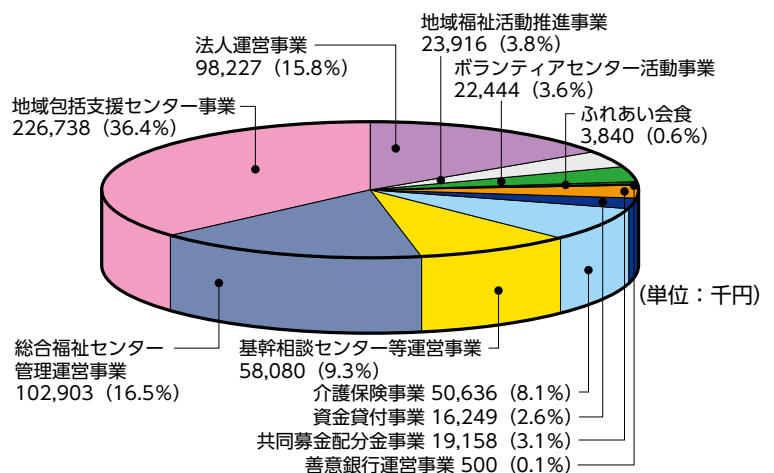
勘定科目		金額	
経常活動	収入	会費収入	12,794 2.0%
		寄附金収入	500 0.1%
		経常経費補助金収入	139,536 22.1%
		受託金収入	320,064 50.6%
		事業収入	360 0.1%
		貸付事業収入	7,000 1.1%
		共同募金配分金収入	15,658 2.5%
		介護保険収入	124,391 19.7%
		自立支援費等収入	10,627 1.7%
		補助事業等収入	1,200 0.2%
		私的契約利用料収入	45 0.0%
		雑収入	144 0.0%
		受取利息配当金収入	329 0.1%
		合計	632,648 100.0%
		支出	人件費支出
事務費支出	62,734 10.1%		
事業費支出	131,349 21.1%		
貸付事業等支出	7,000 1.1%		
共同募金配分金支出	1 0.0%		
分担金支出	40 0.0%		
助成金支出	28,548 4.6%		
負担金支出	1,993 0.3%		
合計	622,691 100.0%		
経常活動資金収支差額		9,957 -	

(経理区分間繰入金収入・支出を除く)

◆平成26年度 事業別資金予算(支出) (単位：千円)

費用	経常支出
法人運営事業	98,227
地域福祉活動推進事業	23,916
ボランティアセンター活動事業	22,444
ふれあい会食	3,840
善意銀行運営事業	500
共同募金配分金事業	19,158
資金貸付事業	16,249
介護保険事業	50,636
基幹相談支援センター等運営事業	58,080
特別会計	
総合福祉センター管理運営事業	102,903
地域包括支援センター事業	226,738
合計	622,691

(経理区分間繰入金支出を除く)



## 社協プランの進行

社協プランの平成25年度における主な事業の進捗状況については、次のとおりです。市民の皆さまからご意見を募集しますので、5月30日（金）までに郵送またはメールでご意見をお寄せください。

なお進行管理の詳細については、市社会福祉協議会のホームページに掲載しています。

【メール：daihyo@akashi-shakyo.jp / HP：http://www.akashi-shakyo.jp】

### (1) 地区社会福祉協議会の活動支援を強化する

計画内容		取り組み状況		事業の今後の方向性
重点取組のポイント	具体的取り組み	達成度	平成25年度	
①地区の特性を活かした地区社協の在り方の再検討	地区社協が主役となった圏域の活動の支援	A	平成23年度から小学校区を再編し、現在20の地区社協が設置されている。また、魚住町地区では平成26年度の再編に向けた調整を、大蔵地区では地区社協の活動・圏域のあり方検討を実施。	拡充 小学校区単位のまちづくりを進めるといいう市の方針により、平成23年度から地区社協の再編が進められており、今後も支援を行う。また、地域ごとの状況や福祉関係機関等の社会資源の情報をまとめた「地域つながるカード」を作成し、住民が行う地域の特色を活かした地域福祉活動の支援を行う。
	地区社協ニュースによる活動のPR	A	高丘地区社協、大久保小地区社協に続き、和坂小地区社協・錦城地区社協が広報紙を作成。	拡充 市民の地域福祉活動への関心を高めてもらうため、地区社協活動のPRチラシや広報紙の作成を各地区社協へ働きかける。
②市社協における地区担当制の導入	地区担当職員による地区社協の支援	A	地区担当職員5名が地域に出向き、地区社協の役割や活動内容をまとめたハンドブックの説明を行い、地区社協役員を中心に意識向上を促した。特に、大久保小地区社協・魚住町地区社協に対し積極的な支援を実施。	拡充 地域の困り事などの相談窓口や、地域福祉コーディネーターとしての役割が果たせるよう地区担当職員の資質向上を図るとともに、担当地区における各種会議やイベントに積極的に参加するなど、地域とのつながりをより強めていく。

### (2) 担い手養成とネットワーク化支援を推進する

計画内容		取り組み状況		事業の今後の方向性
重点取組のポイント	具体的取り組み	達成度	平成25年度	
①ネットワーク化の推進	ボランティアのネットワークの推進	A	ボランティアフェスタにおいて、登録ボランティアと学生ボランティアの交流をすすめている。また、大久保小・山手小・高丘地区では、地区内のサロン交流会を毎年実施している。	維持 ボランティア同士のネットワークについては、年々充実している。今後も、ボランティアの養成とボランティアグループの連携強化を推進する。
②担い手を増やす	地域でのボランティアの養成	C	福祉スクールや一日ボランティア体験教室で、車いす等の福祉体験教室を開催した。ふれあいフェスティバルやボランティアフェスタの際に福祉体験を推進したが、現状では活動の担い手増につながっていない。	拡充 住民主体の地域福祉を推進していくため、福祉体験教室などをさらに充実させ、活動の担い手を増やしていく。

### (3) 住民と力を合わせて人のつながりを拡げていく

計画内容		取り組み状況		事業の今後の方向性
重点取組のポイント	具体的取り組み	達成度	平成25年度	
①地域や団体が実施する福祉活動支援の拡充	花見会などのつどいやミニケア・ふれあいサロンなどの事業の充実	B	地域で開催されるつどいや、ミニケア・ふれあいサロン、地域ボランティアグループの活動などを支援。地区社協再編の影響で、自治会単位のサロンが毎年2～3か所増加。	拡充 地域におけるきめ細かな地域福祉活動を推進し、地域の福祉力を高めていくために、つどいなどの事業をさらに充実させていく。
	閉じこもりや孤立化を防ぐふれあい訪問事業の実施	C	平成22年度に野々池地区でモデル事業が実施されて以来、これまでに他の各地区社協で実施され、平成25年度には魚住町地区社協が新たに加わるなど順次拡大。	拡充 高齢者等の閉じこもりや孤立化を防ぐためには地域の力が必要であり、地区社協、地域ボランティア等の理解と協力を得て、全市的な取り組みに拡げる。

# 管理の進捗状況

達成度 A:高い B:やや高い C:ふつう D:やや低い E:低い

## (4) フォーマルからインフォーマルまで一貫した視点で地域生活を支える

計画内容		取り組み状況		事業の今後の方向性
重点取組のポイント	具体的取り組み	達成度	平成25年度	
①災害時での要援護者支援につながる視点での取り組み	災害ボランティアの登録と活動支援	B	災害ボランティア研修会(実動訓練)の実施、地域での防災訓練や市が実施する防災訓練に参加。また、東日本大震災を契機に災害ボランティア登録者数も増え、3年に1度の更新時に継続の意思確認を実施。個人75名、団体6(H26.2月末)	維持 災害発生時に、迅速かつ効果的に救援活動が行えるよう、災害ボランティアの登録者数を増やしていくとともに、研修、訓練等の実施回数を増やしていく。
②地域包括支援センターの充実	地域包括支援センターの体制の充実	B	増え続け複雑化する相談に対応するため、保健師1名、社会福祉士2名、主任介護支援専門員1名を採用し、より一層の体制強化を実施。また保健、医療、福祉関係機関、民生児童委員、自治会、ボランティア等との連携の強化を実施。	拡充 複雑化する包括的支援事業および業務件数の増加に適切に対応することができるよう、さらなる体制整備を進める。
③介護保険事業の実施についての見直し	介護保険事業の実施についての見直し	D	居宅介護支援事業では、事業収入は前年度とほぼ同額となり、事業利益増とはならず。また、訪問介護事業等では、パートホームヘルパーを増員したが退職者数を十分に補充できず、事業の拡大とはならなかった。	改善 引き続き、経営改善に取り組む。
④障がい者、高齢者等の生活支援	基幹相談支援センター兼障害者虐待防止センターの運営	A	10月1日より地区担当制を敷き、地域密着の関係作りを推進した。また、在宅介護支援センター等に啓発等を実施したほか、自立支援協議会の運営や、相談員の能力向上を図る等の取り組みを実施している。	拡充 個々の相談員のスキルアップを図り、障がい種別を問わない相談支援を全員が高いレベルで提供できるよう取り組む。また、地域の中でより顔の見える関係を構築し、よりよいケースワーク(本人中心支援)を実践する。
	障がい者、高齢者等の生活支援	C	身体障害者福祉協会や市視覚障害者福祉協会との懇談会を開催するとともに、135Eネットの定例会に出席し、社協と各種団体との関係づくりや要望の把握に努めた。	維持 当事者団体と市社協との関係づくりや、要望の把握、潜在的なニーズの掘り起こしなどにつなげるため、定期的な懇談会を継続して行う。
⑤地域における新たな取り組みの推進	(仮称)地域お助け隊の推進・支援	C	明石警察署の「SOSネットワーク」の補完として開発したメール情報「徘徊・見守りSOSネットワーク」の積極的なPRを実施。また、在宅介護支援センター等を通じて、徘徊が心配な方のおられる家族に登録の案内を実施。民生児童委員にもPRを行い、協力者としての登録依頼を実施。登録者:37名、協力者:135名(H26.2月末)	拡充 高齢者や障がい者の生活支援のため、既存サービスの隙間にある新たなサービスの提供をさらに拡充していく。

## (5) 市社会福祉協議会の体制を強化・充実する

計画内容		取り組み状況		事業の今後の方向性
重点取組のポイント	具体的取り組み	達成度	平成25年度	
①多様な情報発信手段の拡充	広報紙「あかしの社会福祉」の充実	B	広報紙「あかしの社会福祉」を平成23年7月からフルカラー印刷に変え年4回発行。少しでも市民の方に見てもらおうように工夫し、内容の充実にも努めた。またリーフレットを発行し、市社協の実施事業をPR。ホームページでは、常に最新の情報を提供出来るように内容を更新した。	拡充 今後も市民の必要とする情報を、分かりやすく、タイムリーに伝えることができるようホームページや広報紙などの充実を図る。
	市社協事業のPR			

# 地区社協フォーラムを開催しました！

平成26年2月27日(木)、産業交流センターにて地区社協フォーラムを開催しました。『福祉を中心としたまちづくり活動』をされている地区社会福祉協議会の役員が集まり、日頃の地域での活動の報告や抱えている思いについて話し合いました。

最後にはそれぞれの地区社協で平成26年度の取り組みに向けた『スローガン』が決まりました！


- ・『助け合う為の、井戸端会議推進』
- ・『育てよう 子どもの心に福祉の目』
- ・『パッチワークのように「助け合い」が重なる街を目指して』など

それぞれの地域ならではの工夫とアイデア、役員の実情がスローガンにたくさん盛り込まれました。

地区社会福祉協議会

---

**平成26年度のスローガン!!**





## 新役員紹介

3月28日に開催された理事会と評議員会で、次の方々が新たに選任されました。(敬称略)

評議員 井上 真一

(任期 平成26年3月28日

～平成26年7月14日)

理事 京本 穰

評議員 野村 信一

(任期 平成26年4月1日

～平成26年7月14日)

## 平成26年度ボランティア養成講座のご案内

市社会福祉協議会では、ボランティア活動に関心のある方を対象に下記のようなボランティア養成講座を開催しています。

養成講座を受講することで気軽にボランティア体験ができたり、また実際に活動に入る前のイメージ固めをすることができます。

ボランティア活動に関心のある方、気軽にお問合せください。

**【対象者】** 市内在住もしくは在勤でボランティア活動を希望する方

**【費用】** 受講料500円・ボランティア保険料500円（他にテキスト代等が必要な場合もあります。）

**【申込み・問合せ】** 市社会福祉協議会地域福祉係 電話 (078) 924-9105 FAX (078) 924-9109  
 ※講座の内容や日時等については、現時点での予定です。

都合により変更する場合がありますので、お問合せいただくか広報あかし等でご確認ください。

事業名		日時	回数	場所※	募集人員	内容	広報あかし掲載予定
パソコン要約筆記者養成講座		5/23(金)~12/19(金) 13:00~16:00	28回	総福	20人	聴覚障がい者への理解を深め、OHPやノートテイク等による情報を提供する基本的な技術を習得し、聴覚障がい者の社会参加と自立を応援するボランティアの養成講座。	4月15日
点訳ボランティア養成講座		9/4(木)~10/23(木) 10:00~12:00	8回	総福	20人	視覚障がい者への情報提供の充実と社会参加を促進するため点字の基礎知識を学び、点訳を行うボランティアの養成講座。	8月1日
朗読ボランティア養成講座		9/10(水)~11/12(水) 10:00~12:00	10回	総福	15人	視覚障がい者への理解を深め、朗読による情報提供のための基本的な技術を学び、社会参加と自立を応援するボランティアの養成講座。	8月1日
手話ボランティア養成講座	午後の部	9/1(月)~3/9(月) 13:30~15:30	20回	総福	20人	聴覚障がい者への理解を深め、手話による日常会話の初歩を習得し、手話通訳をめざすボランティアの養成講座。	7月15日
	夜の部	10/1(水)~3/11(水) 19:00~20:30	20回	総福	20人		8月15日
子どもとふれあうボランティア養成講座		6/19(木)~7/3(木)、 7/11(金) 10:00~12:00	4回	生学	20人	子どもとふれあい、色々な立場から支援するボランティアの養成講座。子どもの発育の理解を深め、ともに楽しみながら関わっていく方法を学ぶ。	5月15日
布おもちゃボランティア養成講座		11/19(木)~12/3(木)	3回	総福	15人	手作りの布の絵本・遊具作りを通じて、子どもの社会スキルの獲得と五感の発達を支援するボランティアの養成講座。	10月15日
外出応援ボランティア養成講座	車いす介助	5/20(火)~6/3(火) 10:00~12:00	3回	プラザ	15人	体の不自由な人や高齢者の車いす介助、視覚障がい者のガイド・ヘルプなど、外出時の介助について学ぶ。それぞれ3回シリーズで開催する。	4月15日
	視覚障がい者ガイドヘルプ	5/22(木)~6/5(木) 10:00~12:00	3回	プラザ	15人		4月15日

※場所の「総福」は市立総合福祉センター、「生学」は生涯学習センター、「プラザ」はふれあいプラザあかし西ボランティア活動室になります。

## インフォメーション

### 車いすの貸出・福祉機器リサイクル

市社会福祉協議会では、無料で車いすの貸出を行っています。ぜひご利用ください。また福祉機器リサイクル事業も行っていますので、電動ベッドや車いすなどのリサイクル品が必要な方はお申し出ください。また、ご家庭で使わなくなった再利用可能な電動ベッドや車いすなどがありましたらご連絡ください。

市社会福祉協議会 在宅福祉係 TEL078-924-9105

### \* 会員募集(会費)のお願いとお礼 \*

明石市社会福祉協議会は、社会福祉法に定められた非営利の福祉団体です。

みなさんの参加協力を得て、高齢者のふれあい会食や地域ボランティアグループ等による要支援高齢者等の生活支援を進めるほか、市内130ヶ所をこえる自治会集会所等での車いす貸出事業などさまざまな地域福祉活動に取り組んでいます。そして、これらの活動を財源面から支えるため、毎年5月下旬に、各自治会、町内会、民生委員等の協力を得て、普通会費や特別賛助会費・施設団体会費をお願いしています。

平成25年度社会福祉協議会会費の状況は次のとおりです。ありがとうございました。

社協の活動の趣旨をご理解いただき、本年度もみなさんにご加入いただきたく、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

	25年度会費
普通会費 (一世帯 120円/年)	10,197,630円
特別賛助会費 (一口 2,000円/年)	1,196,000円
施設団体会費 (一口 5,000円/年)	380,000円
合計	11,773,630円

#### 主な活用状況

- |  |  |
|--|--|
| <p>1 地区社会福祉協議会支援事業費 [4,507,030円]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の各種団体等の活動支援</li> <li>・地域での福祉啓発事業等の実施 (元気アップ事業、福祉スクール、ボランティア交流会などの実施)</li> </ul> | <p>2 地域福祉活動事業実施のための社協運営費 [7,266,600円]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市社会福祉協議会事務事業費</li> <li>・ボランティアセンター運営事業費</li> <li>・在宅、地域福祉活動推進費等</li> </ul> |
|--|--|

### みなさまの善意に感謝します！ H26.1.1～H26.3.31(敬称略)

善意銀行とは？・・・皆様から寄せられた善意の金品を預託という形でお預かりし、福祉の増進を目的に社会へ還元しています。

**金銭預託** (205,806円) 福林寺、望海コミセン、生田 一雄、あかねが丘学園陶芸クラブ、アップル歯科クリニック、匿名6件

**物品預託** (日用品、電動車いす、衣類) イオン明石店SC、ナブテスコ株式会社、明石機械工業株式会社

### 東日本大震災義援金

- ファミールハイツ明石自治会
- 明石市民生委員・児童委員協議会主任児童委員部会

(17,636円) H25.4.1～H26.3.31まで

ご協力ありがとうございました